

農 研 速 報

2025 年 8 月 28 日 発行
 茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室
 〒301－0816 茨城県龍ヶ崎市大徳町 3974
 TEL: 0297－62－0206 FAX: 0297－64－0667

大豆の生育状況(8月26日現在、龍ヶ崎市)

地 域 名	生育ステージ		生育(作柄・品質)概況	備考
	本 年	対 平 年 遅 速		
茨 城 県 (龍ヶ崎市)	里のほほえみ 莢伸長期～ 子実肥大期 納豆小粒 着莢期～ 莢伸長期	1日早い 平年並	龍ヶ崎市における7月第5半旬～8月第5半旬の気象および大豆の生育概況は、下記のとおりである。 【気象】 気 温: 平均気温はやや高かった(平年差+1.0℃、図1)。 降 水 量: 平年比 61%とやや少なかった(図2)。 日照時間: 平年比 113%とやや長かった(図3)。 【生育】 開花期は平年に比べ、「里のほほえみ」が7月 30 日と1日早く、「納豆小粒」が8月7日と平年並であった。 8月 26 日調査時点の地上部生体重は、「里のほほえみ」はやや軽く、「納豆小粒」は平年並であった。一株莢重は「里のほほえみ」は平年並で、「納豆小粒」はかなり軽かった。品種別の調査項目の平年値との比較は以下のとおり。 <u>里のほほえみ</u>: 主茎長は平年並で、主茎節数はやや多く、分枝数は平年並で、茎の太さはかなり太く、地上部生体重はやや軽かった。一株莢数はやや多く、一株莢重は平年並であった。 <u>納豆小粒</u>: 主茎長、主茎節数、分枝数は平年並で、茎の太さはやや太く、地上部生体重は平年並であった。一株莢数は平年並で、一株莢重はかなり軽かった。 写真1に8月26日時点の所内大豆の生育状況を示した。 「里のほほえみ」は一部に葉焼病が見られた(写真1)。 【注釈】 1) 対平年遅速は開花期の本年値と平年値の差による。 2) 平年値は直近5カ年分(令和元年～5年, 令和6年は天候不順により播種期が13日遅れたため除外)のデータ平均値。	●病害虫防除をこれまで下記の通り実施した。 ・害虫防除: 8/5、8/13 ・紫斑病防除: 8/13 ・その他病害防除: 8/5 ○紫斑病の防除適期は、開花期の20～30日後頃である。 ○「里のほほえみ」は、べと病が発病しやすい傾向があるため、防除に努める。 ○病害虫の情報や防除対策は、病害虫防除部のホームページを参照する。 (http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/)

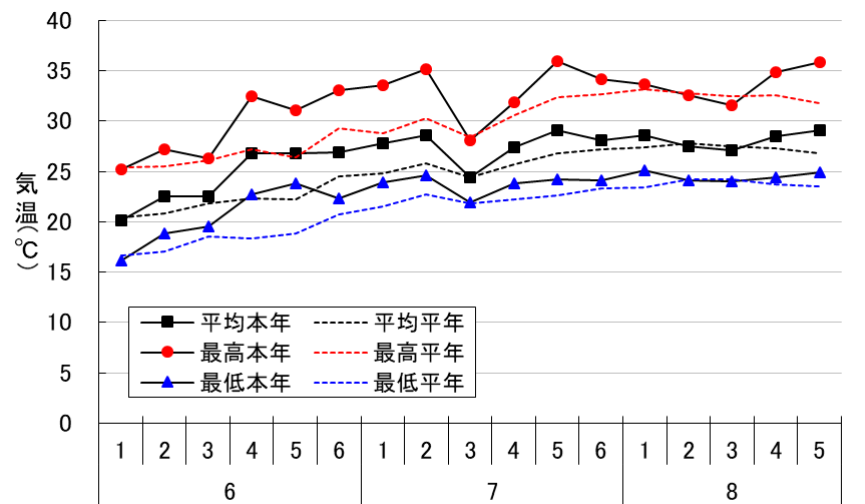


図1 半旬別最高・最低・平均気温の推移 (月・半旬)

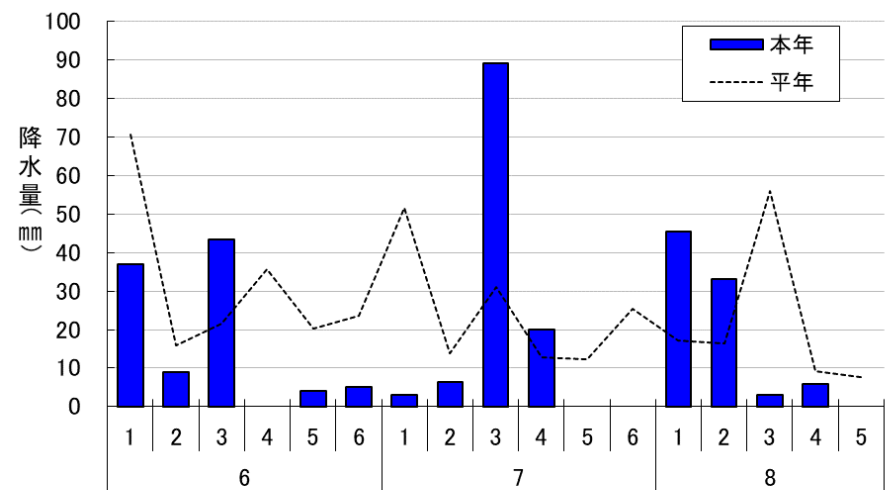


図2 半旬別降水量の推移 (月・半旬)

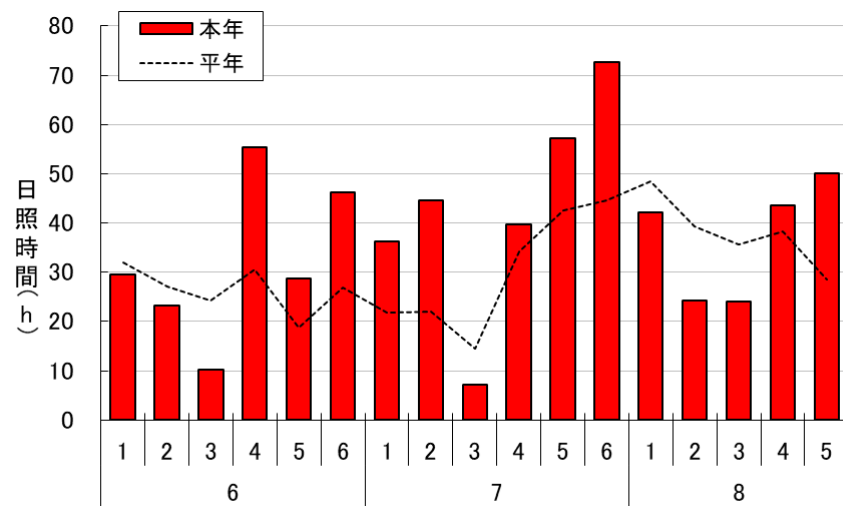


図3 半旬別日照時間の推移 (月・半旬)

表 1 輪換畑における大豆の生育（龍ヶ崎市、水田利用研究室）

品 種	開花期			主茎長			主茎節数			分枝数			茎の太さ		
	本年 (月日)	前年値 (月日)	平年値 (月日)	本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (節)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本/株)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (mm)	前年比 (%)	平年比 (%)
里のほほえみ	7.30	7.28	7.31	59.5	106	102	15.0	109	108	4.2	117	93	16.6	134	131
納豆小粒	8.07	8.04	8.07	66.9	83	98	16.5	96	101	7.5	106	96	11.2	110	106

品 種	地上部生体重			一株莢数			一株莢重		
	本年 (g/株)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (莢/株)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (g/株)	前年比 (%)	平年比 (%)
里のほほえみ	220.9	84	83	97.5	125	114	38.0	126	106
納豆小粒	247.0	79	100	152.9	107	97	4.1	63	57

- 1) 圃場来歴：転換2年目（前作麦）

2) 播種期：6月20日

3) 播種密度：11.1株/㎡（畦間60cm、株間15cm）1本立て

4) 基肥：N-P₂O₅-K₂O＝0.3-1.2-1.2kg/a

5) 中耕・培土：7月23日（初生葉節まで実施）
- 【注釈】

1) 生育調査は8月26日に実施

2) 茎の太さは子葉節と初生葉節の中間で最も太い部分を測定

3) 地上部生体重は子葉節で切断した地上部の重さ

【平年値】

令和1年～令和5年播種の5ヵ年の平均値（令和6年は天候不順により播種期が13日遅れたため除外）



写真 1 所内大豆の生育状況（8月26日撮影、左から里のほほえみ、納豆小粒）

気象概況および生育状況における表現について

平年値(過去5年間の平均値)との違いの程度を、「低い(少ない)」、「平年並」、「高い(多い)」等の階級区分で表しています。
各階級の幅は、下図のように、統計期間における出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めています。
さらに、「低い(少ない)」、「高い(多い)」については、補足的表現として下図に示す出現率となるように「やや」、「かなり」と表しています。

